

気候市民会議 in 逗子・葉山からの提案 素案

この素案は、以下の手順でまとめたものです。

- ① 第4回のグループワークの成果物をグループファシリテーター及び事務局が excel に整理
- ② 「移動」「住まいとエネルギー」「製品」「食」それぞれに、①をもとに事務局と専門家が提案の大項目・中項目・小項目(具体的な提案)に整理し素案ドラフト A を作成
- ③ 11月13日の運営委員会で②作成のプロセスと内容を確認し、まとめ方を検討
- ④ ②をベースに、さらに似通った提案をまとめた素案ドラフト B を作成
- ⑤ 11月18日(土)午前に、参加市民のボランティア(Aグループ2名、Bグループ2名)による確認会を実施し、以下について意見をいただく
 - 1) 第4回で出された意見で落ちている提案はないか
 - 2) ドラフト A からドラフト B への整理段階で、市民が意図した提案のニュアンスが変化しているものはないか
- ⑥ ⑤の結果を反映させ、本素案を完成

分野:移動

赤字は専門家からのコメント ※は用語解説等を文末に記載

提案の大項目	提案の中項目	提案の小項目	
		市民の取り組み、事業者、地域社会への提案	市・町(県、国)への提案、官民協働の取り組み提案
1. 公共交通が充実した地域	(1) 鉄道を充実する		<p>111. 市・町と事業者は、逗子-葉山間に大量輸送機関を整備する(地下鉄、高架、海上等)</p> <p>112. JRと京急の駅の一体化し、駅ビルやバスロータリーを整備することで交通弱者問題の解決を図る</p>
	(2) 高齢者にも利用可能な公共交通ネットワークを整備する	121. バス事業者は利便性やお得感を高め、市民はバスを利用することで、減便されないという好循環をつくる	
2. 公共交通を補完する交通システムが整備された地域	(1) コミュニティバス・乗合タクシー等を整備する	211. タクシー事業者は、乗合サービスを促進する。(行先別にレーンを分ける、アプリを活用するなど)	<p>212. 自治体が窓口となり、各地域主体と協力しコミュニティバスを導入し、市民はコミュニティバスを率先して利用する</p> <p>213. コミュニティバスは、点在する病院施設の巡回や、目的施設別の運行等を行い、利便性を固める)</p>
	(2) 安全なライドシェア※を導入・推進する		221. 市はライドシェアリングの実用化に向け、テスト走行や料金制度の試行などから着手し、市民はそれに参加することで、抵抗感をなくす働きかけを行うなど、普及の一翼を担う
3. 多様な脱炭素モビリティが普及している地域	(1) EVを普及促進する	311. 事業者はEVによるカーシェアリングを拡大し、市民はそれを積極的に利用する	<p>312. 市・町は逗子・葉山をEV推進地域としてブランディングし、充電施設等(路面充電含む?)の増強や補助金等によりEV車の利用・取得を促進する</p> <p>313. バス及びコミュニティバスにはEVを導入する</p>

	(2) バイク・キックボード等多様な交通手段の利用を促進する	<p>331. 事業者は、EV、バイク、キックボード等の販売、メンテナンス、レンタルの関連の事業を一括的に取り扱うとともに、充電装置の規格の統一化を図る</p> <p>332. 市民や観光客は、これらを積極的に活用する</p>	
	(4) 徒歩や自転車での安全に移動できる環境を整備する	<p>341. 市民は健康のためにもなるべく歩くよう努める</p>	<p>342. 市・町は電柱の地中化を進め、徒歩、自転車利用の安全性を確保する</p> <p>343. 市・町は自転車の利用を促進する(自転車の購入補助や駐輪場の割引など)</p>
4. コンパクトで住みよい地域	(1) 交通弱者のいないまちづくりを進める		<p>411. 交通弱者のいないまちを目指した都市計画の見直しを進める。</p>
	(2) コンパクトな移動により利便性を享受できるまちづくりを進める	<p>421. 市民は、まとめ買い、買い物代行の利用や在宅勤務の活用等により、自動車による移動を減らす</p> <p>422. 事業者は、移動販売やバス停溜所等でのマルシェ開催などを充実させ、市民はそれを利用する</p> <p>423. 事業者はネット販売を充実させる。運搬には公共交通機関の利用や、駅ロッカーやコンビニ受取りを活用するなど、自動車利用を抑える工夫を行う</p>	<p>424. 市・町と事業者は、駅近くに働く人、子育て世代がメインで使える、夜間に営業しているメディカルモール設置する</p> <p>425. 高校は、学校間での単位連携やリモート授業を積極的に取り入れ、通学による移動を減らしつつ、生徒のニーズに合った教育を提供する</p>
5. 自動車交通量の削減が進み渋滞が解消された地域	(1) 自動車交通量を減らす	<p>511. 塾・習い事の事業者は、連携して子ども達を拠点にまで送迎するようにする</p> <p>512. 空飛ぶ自動車を実現させ、時間短縮と個別移動の減少を図る(これは物流?人の移動?後者だとすると、大きなエネルギーを必要とします)</p>	<p>513. 朝夕は自動車の駅への乗入れを制限するなど、自家用車に対する何らかの規制を導入する</p> <p>514. 高齢者に対し移動手段における優遇措置を行うなどして、免許返納を促す</p> <p>515. 市・町は通学用の移動手段を充実させる。</p>
	(2) 土日・休日の観光客に伴う自動車交通量を減らす		<p>521. 休日やハイシーズンなどは、混雑する時間帯・場所を対象に、自動車通行の規制を行う(住民通行手形の発行、域外車には課金を課す等)</p> <p>522. 周縁部に駐車場を設け、バス等に乗り換えを奨励する。</p>

分野:住まいとエネルギー

赤字は専門家からのコメント ※は用語解説等を文末に記載

提案の大項目	提案の中項目	提案の小項目	
		市民の取り組み、事業者、地域社会への提案	市・町(県、国)への提案、官民協働の取り組み提案
1.再生可能エネルギーが普及した地域	(1)太陽光パネルの設置を進める	111. 市民は、太陽光パネルを導入して各家庭で電気を作る	112. 市・町は、全ての公共施設、および市・町内のすべての空きスペースで太陽光発電を設置する(追加案:「公共施設ではペロブスカイトなどの次世代型太陽光発電を先駆的に導入し、一般社会への導入を促進する」などとしてはどうか?)
	(2)再エネの地域内での活用を進める	121. 市民は、蓄電池・EV車などを各家庭で導入する	122. 市・町は電力会社と連携して、IoTを活用してエネルギーの需給バランスを最適化することで、再エネを最大限地域内で活用する。※参考事例で補足説明 ※小田綿の事例参照 123. 市・町は、卒FITの家庭用太陽光発電による電力を購入し、地域通貨で還元する。 124. エネルギーの地産地消のために、マイクログリッド(小規模なエネルギーネットワーク)を整備するとともに、大型蓄電池やEV(蓄電池の役割も兼ねる)の導入を促進することでエネルギーの安定化を図り、太陽光発電の導入メリットを高める。
	(3)地域電力の設立		131. 波力発電所などの創エネ会社を市民のクラウドファンディングで設立し、地元になたな再エネ産業をつくり再エネ電力の供給を行う
	(4)エネルギーを作ることを楽しむ	141. トレーニングジムマシーンを発電仕様にした発電ジムをつくり、作った電気を地域で活用する(街灯を付ける、ポンプで川をきれいにするなど)	142. 市・町と地域社会は、発電チャレンジデーをつくる

	(5)その他		151. 焼却熱を回収する
2. ZEH 住宅が普及した地域	(1) 高断熱住宅を普及・促進する	<p>211. 市民は無駄なエネルギーをゼロにする高断熱な住宅に住むために、家のリフォームや改築時には断熱化などを検討する</p> <p>212. 市民は、逗子葉山断熱 DIY サークルや、省エネ自慢逗子葉山 SNS をつくり、断熱・省エネについて学ぶ</p> <p>213. 断熱 DIY インフルエンサーに住宅の省エネをオシャレに発信してもらう(季節の変わり目ごとの省エネ知識、断熱方法、生活モデル・電気使用量公開など)</p> <p>214. ZEH の賃貸住宅、集合住宅を提供する</p>	<p>215. 断熱の診断・リノベを促進する補助金を出す</p> <p>216. 環境に良い住宅などを購入する際に脱炭素ポイントをつける</p>
3. 逗子・葉山の伝統や自然環境を活かしたライフスタイルが普及した地域	(1) 地域の自然、生産物、建築物を活用する	<p>311. 新築時に庭に植樹する等のルールを共有し、市民は、各家庭での植樹・園芸を普及させる(それを支援する「地域園芸部」をつくる)</p> <p>312. 市民は、古民家や古民家の構造、井戸など、逗子葉山に古くからある建築物やインフラを活用して暮らす</p>	
	(2) コミュニティスペースの共同利用を進める	321. 市民は空き家などをコミュニティスペースとして提供する	322. 市・町・事業者は、図書館や商業施設などをコミュニティスペースとして提供し、市民はこれらを活用する
	(3) 夜間の電力消費を削減する	<p>331. 市民は、夜更かしを止めて早起きをする</p> <p>332. 夜 9 時以降の営業を禁止する(病院等は除外的とする)</p>	333. 夏時間(サマータイム)制度を導入する
	(4) 脱炭素なライフスタイルを普及する		341. 市民・町民独自の「脱炭素デー or ウィーク」に取り組む

分野：製品

赤字は専門家からのコメント ※は用語解説等を文末に記載

提案の大項目	提案の中項目	提案の小項目	
		市民の取り組み、事業者、地域社会への提案	市・町(県、国)への提案、官民協働の取り組み提案
1. 脱炭素や環境に配慮した消費が行われている地域	(1) 脱炭素や環境に配慮した消費のあり方を普及する	<p>111. 市民は、製品の背景(企業理念、原材料、地元産、修理可能かなど)をふまえて選ぶ力をつける</p> <p>112. 企業は、環境や社会に配慮した製品を選ぶ(専任の部署を設ける) → 専任の部署は必要か?</p>	<p>113. 市・町は、脱炭素や環境に配慮した消費に関する意識を高める取り組みを行う(情報発信、資格認定、学校教育に取り入れるなど)</p>
	(2) 脱炭素に取り組んでいるお店や商品を増やし、見える化する		<p>121. 市・町と事業者は協働で、脱炭素に取り組んでいるサービス、商品、お店などをもっとアピールする</p>
	(1) 共同利用(シェアリング)を進める	<p>131. 市民は、シェアを基本とした生活様式に転換し、所有物を地域の共有物にする。自給自足、近所と仲良く、物々交換を楽しむ</p> <p>132. 市民と地域社会は、地域で共同利用したほうが良いモノ(草刈り機やDIY用品など)を選定し、共有できる仕組みに参加する</p>	<p>133. 市・町はモノを貸し借りする「モノの図書館」を運営し、地元の貸し借り情報が共有されているホームページやSNSを提供する</p>
	(2) リユースを進める	<p>141. 市民と地域社会は、地域で不用品を交換できるフリーマーケットを充実させるとともに、アプリやSNS(あげます・ください)なども活用し、様々なモノのリユースを進める</p>	
2. ごみの減量が進んでいる地域	(1) リユース容器、マイカップなどを推進する	<p>211. 地域で共有して使えるリユース容器を作り(もしくは既存のものを採用し)、お店やイベントで提供する。市民はそれを利用する</p> <p>212. 市民はマイカップを使用し、事業者はイベントや店舗などでマイカップ割引を導入する</p>	<p>213. 官民協働でリユース容器の普及に取り組む(洗浄施設の設置、洗浄サービスの提供、リユース容器使用店舗のアピール等)</p>

			214. 市・町は使い捨て容器を条例で規制する
(2) 価値あるリサイクルを推進する	221. ペットボトルやプラスチック容器などの規格を統一し、メーカーが回収から再製品化まで責任を持つ (ペットボトルは規格統一・リサイクルが進んでいる素材なので、ここでは記載しなくてもよいのでは)		
(3) 地域でゴミ減量に取り組む	231. 食品トレイなど、販売者・消費者がゴミを減らしやすいシンプルな規格を作る	232. 地域全体でゴミの削減目標を掲げ、目標達成し節約できた費用を地域に還元する(花火の発数を増やす、公園を整備する、イベントを開催、ゴミ袋代を安くするなど) 233. 廃棄を減らせた分、他から引き受け収益にする 234. ゴミ分類を見直し、ゴミの流れをわかりやすく示す	

分野:食

赤字は専門家からのコメント ※は用語解説等を文末に記載

提案の大項目	提案の中項目	提案の小項目	
		市民の取り組み、事業者、地域社会への提案	市・町(県、国)への提案、官民協働の取り組み提案
1. 持続可能な農業・漁業による地元の農産物・海産物を市民が消費する地域	(3) 地元の持続可能な農産物・海産物の消費を活性化する	111 市民は、地元の持続可能な農産物・海産物を、可能なら地元の個人商店で積極的に消費する	112 市・町と事業者は協働で、地元の持続可能な農産物・海産物の購入を促す取り組みを行う(購入できる場所や時間などの情報発信、販売所等への交通の改善)
	(4) 農業・漁業生産者による持続可能な生産を維持するための支援を強化する	121 農家は、農地へのソーラーパネル設置を通して収入アップを図る	122 市・町と事業者は協働で、就農支援、援農ボランティアを拡大し、農業・漁業後継者のマッチングを拡大する
2. 市民が持続可能な食の生産をリードする地域(or 生産に参加する地域)	(1) 市民が食料を作る機会を増やす	211 市民は、市民農園への参加やベランダ・庭での栽培などを通じ、自分でも食料を作る	212 市・町は公園・学校等の一部を、事業者は建物の屋上等の一部を市民農園として活用できる仕組みを作る
	(2) 食の生産を通じた市民と生産者との交流と協働を活発にする	221 事業者や地域社会は、海藻オーナー制度を導入し漁業者を支援する 222 市民は、野菜などの栽培をみんなで学べる地域「園芸部」を作る 223 事業者は、農業や漁業の体験機会を増やす	
3. 食品廃棄・ロスのない地域	(1) 食品ロスをゼロに近づける	311 市民は、規格外の野菜等や消費期限の近い食品を積極的に購入する 312 事業者は、食品ロスを減らす販売を拡大する(規格外の野菜の販売、規格の見直し、量り売り等)	313 市・町や地域社会は、食品を無駄にしないための知識と行動を広める(もったいないコンテストの開催、食品を無駄にしない保存・活用の情報共有、備蓄用保存食の防災イベント等での活用)

	(3) どうしてもでてしまう食品廃棄・ロスは徹底的に活用する	321 事業者や地域社会は、レストラン・店舗のキャンセルで出た食品の情報を共有し必要な人が活用できるようにする	322 市・町を含むあらゆる主体が、フードドライブ、フードバンク※ に協力・活用する
	(3) 生ごみのたい肥化を推進する	331 市民は、個人や地域でコンポスターを活用して生ゴミを堆肥化する	332 市・町や地域社会は、「あげます・ください」のような地域で活用する仕組みを運用することにより、生産者と消費者の交流・協働を活性化する
4. 健康で持続可能な食生活を誰もが選べる地域	(1) 脱炭素型のタンパク源を選びやすくする	411 市民は、肉を食べる頻度を減らし、魚、鶏肉、植物由来の食品など、温室効果ガスの少ないタンパク源を積極的に選ぶ	412 市・町や学校、地域社会は、温室効果ガスの少ないタンパク源が健康にもよいことや、美味しい食べ方を学ぶ機会を増やす(地域ミートレスデーの実施、学校でのミートレス給食等の実施など)

【参考情報】

小田原市の取り組み事例:

市の中心部である小田原駅東口エリアと同駅に近い生活拠点である久野地区生活拠点エリアに、カーポート型を含め、太陽光発電・蓄電池を最大限導入。地域需給バランス・取引システムを構築し、既存のVPP※技術等の活用により、配電網レベルでの系統混雑を未然に防止し、地域の再エネを最大限活用する仕組みを構築している。

(小田原市)

【用語解説】

ライドシェア：「相乗り」を意味し、一般のドライバーが自分の車などを使って有料で人を運ぶサービスのこと。米国、中国等で普及していますが、日本では「白タク」として道路運送法で原則禁止されている。一方、公共交通のない過疎地などに限り、市町村やNPOが運営することなどを条件に、一般ドライバーが有償で住民を運ぶ制度はある。神奈川県は、訪日観光客の増加で観光地などでタクシーが不足していることから、「神奈川版ライドシェア」と銘打ってタクシーが足りない地域や時間帯に限定してライドシェアを導入することについて検討を開始している。

VPP (Virtual Power Plant)：直訳すると「仮想発電所」を意味する。再生可能エネルギーをはじめとする電気の需給バランスを保つため、電気を使う側の機器を制御したり、点在する太陽光発電や蓄電池をネットワークでつなぎ、あたかもひとつの発電所のように活用する仕組み。発電所(=電気を生み出すもの)ではあるものの、火力発電所や水力発電所などの実態を持たず、“仮想の存在”であることが特徴。

(東京電力エナジーパートナー) <https://evdays.tepco.co.jp/entry/2022/11/15/kurashi30>

マイクログリッド：大規模発電所の電力供給に頼らず、コミュニティでエネルギー供給源と消費施設を持ち地産地消を目指す、小規模なエネルギーネットワークのこと。エネルギー供給源には、分散型電源である太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などが利用される。このような電源はエネルギー供給が間欠的であるため、エネルギー需要に適合させるのが難しいと言われているが、マイクログリッドではエネルギーを安定させるため、情報通信技術を利用した管理運転をおこなうというのが特徴。

(エコめがね) <https://blog.eco-megane.jp/%e3%83%9e%e3%82%a4%e3%82%af%e3%83%ad%e3%82%b0%e3%83%aa%e3%83%83%e3%83%89%e3%81%a8%e3%81%af%ef%bc%9f/>

フードバンク：主に食品を取り扱う企業から、まだ安全に食べられるのに廃棄される食品を引き取り、福祉施設等へ無償で提供する団体、またはその活動のこと。

フードドライブ：主に家庭などで使い切れない未使用の食品を、学校・店舗などに持ち寄り、フードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動のこと。